

■「指導内容」：現在の北方領土の産業、暮らしについて

1. 本項目の指導内容とねらい

①指導内容	○現在の北方四島の主な産業 ○現在の北方四島に居住するロシア人の暮らしぶり、生活インフラの実態
②ねらい	北方領土問題、北方領土返還要求運動について、生徒一人ひとりに主体的に考えさせるため、日本政府や日本側の問題意識だけでなく、現在、北方四島に居住するロシア人の暮らしや実態を理解させる。

2. 指導上の留意点とアドバイス

北方領土教育の経験豊富な現任教員からのアドバイス	<ul style="list-style-type: none">・主産業は水産業であること、また、これまでインフラ整備は遅れていたものの、近年、ロシア政府が計画的に整備を進めていることを理解させ、現在の北方四島の現実の姿を押しさえる。・現在、北方四島に暮らすロシア人に対して、日本政府はさまざまな支援を行っていること、その背景を考えさせると良い。・現在、北方四島に暮らすロシア人の生活や文化について、関心を持たせ、意欲的に調べさせるとともに、現在のロシア人の暮らしと戦前の日本人の暮らしを比較させることも有効である。・現在、北方四島には約 17,000 人のロシア人が暮らしているが、日本政府が求めているのは、四島に対する我が国への帰属の確認であり、現在、北方四島に暮らしているロシア人を追い出すものではないこと（人権、利益及び希望は返還後も十分に尊重）に留意し、指導を行う必要がある。
ポイント	○北方四島の医療体制は必ずしも良好ではなく、日本政府は四島内での診療が難しい患者の受け入れなど、各種支援事業を実施している。島内の実態に加え、我が国からの支援の実態についても併せて説明し、北方領土問題をめぐる日露両国関係を、「対立構造」だけではないものとして生徒に理解させることが重要である。

3. その他の詳細資料

詳細資料	<p>■現在の北方四島の産業</p> <ul style="list-style-type: none"> • 四島周辺海域は豊かな漁場であり、豊富な水産資源が水揚げされる北方四島では、漁業、水産加工業が島の主要な産業となっている。 • 現在の北方四島では、漁業・水産加工・缶詰製造などの水産業関連の就業者数が全体の39～45%となっている。 • 厳しい自然環境のため、農業生産の中心はジャガイモであり、生産の大部分は、「ダーチャ」と呼ばれる家庭菜園からの収穫である。 • 電力のほとんどは、各集落にあるディーゼル発電所より供給されているが、近年では、徐々に地熱発電への転換が図られている。 <p>■現在の北方四島における暮らし</p> <p><交通・物流></p> <ul style="list-style-type: none"> • 各集落や空港等にアクセスする幹線道路や市街地中心部の道路はアスファルト舗装で整備されているが、砂利で固めた簡易舗装の道路もあり、強い雨の後などは通行に支障が生じる状況である。また、路面の劣化が原因と思われる陥没箇所がいくつか見られ、安全性が十分とは言えない状況である。 • 民間航空機が利用する空港は、国後島と択捉島に各1か所あり、サハリンからの定期便（週5便）が就航している。国後島の空港は気象条件に影響されるが、夜間の飛行機の受け入れが可能となった。 • 交通インフラ整備により、水深の深い埠頭や乗船場施設の建設、護岸工事等が行われ、大型船の係留が可能となり、貨客の積み下ろしが効率的に行われるようになった。 <div style="border: 1px dashed gray; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>～ロシアによる北方四島のインフラ整備計画～</p> <p>「2016-2025年クリル諸島社会経済発展計画」は、北方四島を含む「クリル諸島」を戦略的意義のある重要地域と位置づけた「2007-2015年クリル諸島社会経済発展計画」の後継プログラムとして2015年8月にロシア連邦政府により承認された。10年間にわたるプログラムの予算規模は約689億ルーブル（2016年12月に約609億ルーブルへ削減）であり、その内容は、交通の改善、安定した経済発展のための環境整備、社会インフラの近代化など4つの柱が据えられている。</p> <p>出所「社会基盤」〔出典：内閣府北方対策本部「北方地域総合実態調査-北方四島の現状（平成28年度版）-」〕より作成</p> <p>～北方四島のインフラ整備の状況～</p> <p>「2016-2025年クリル諸島社会経済発展計画」では、「クリル諸島」とサハリン、大陸との交通改善や道路整備など交通インフラ関連の施策が盛り込まれており、港湾や道路などのインフラ整備が継続される予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> • インフラ整備の一環として、空港へのアクセスや集落間を結ぶ道路の整備が進められている。また、自動車の多くは、日本からの中古車である。 • 国後島には「メンデレーエフ」空港、択捉島には「プレヴェスニク」空港があったが、発展計画の予算により、択捉島に「ヤースヌィ」空港が完成し、「プレヴェスニク」空港は軍用及び新空港の予備となった。また、国後島と色丹島を結ぶヘリコプターが運行されている。 </div>
------	--

- 新旧の「クリル諸島社会経済発展計画」により、岸壁や棧橋等の整備がなされ、貨客の積み下ろしに舢舨（はしけ船）を利用せず、直接接岸し係留することが可能となった。旅客数や貨物量の増加を図るため、2隻の近代的な貨客船の建造等が予定されている。
- 四島とサハリンを結ぶ貨客船「イーゴリ・ファルフトジノフ」が唯一の旅客輸送手段である。サハリン州は2013年10月に旅客船「ボラリス」を購入したが、2016年6月に故障し、使用されていない状況である。
- 北方四島の電力事情は悪く、ディーゼル発電所の発電と石炭ボイラーによる熱供給が中心であり、非効率性や高コストも問題となっていたため、既存の発電所の整備や地熱発電、風力発電の運転拡大が計画されているが、ここ数年は横ばい状態が続いている。
- 北方四島の水道整備の状況は、老朽化のため不十分なものであり、「2007-2015年クリル諸島社会経済発展計画」による水道の新再建計画により、上下水道で大規模な修繕がなされた結果、上水道のトラブルが半減した。

出所)「社会基盤」〔出典：内閣府北方対策本部「北方地域総合実態調査-北方四島の現状(平成28年度版)-」〕より作成

<住宅>

- 北方四島では行政府庁舎/病院/文化会館など、^{こやし} 鉋 滓 ブロックで建造された一握りの建物を除き、住宅の多くは木造建築である。ほとんどの住宅が平屋か2階建てであるが、戸数12~40戸の集合住宅も存在している。

<医療・衛生>

- 北方四島の医療事情は良好とは言えないが、色丹島に新たな診療所が完成するなど医療サービスの充実が図られているが、医療機関の数が限られているため、重症患者はサハリンに送られる。
- 日本政府は、北方四島在住ロシア人に対して人道的な支援を行うことで、我が国への信頼感を高め、平和条約締結交渉の促進に向けた環境整備に資することを目的に、次の4つの事業を行っている。
 - ① 患者の受け入れ事業
 - ② 医師・看護師等の研修事業
 - ③ 四島住民に対する健康診断
 - ④ 四島医療支援促進事業
- 現在、約17,000人のロシア人が暮らしている北方四島の医師数、医療施設数は、以下のとおり。

北方四島の医師と医療施設数(2015年時点)

項目	医師数・施設数
医師	60
補助医、看護師等	141
病院	3
病床	153
診療所	6

出所)ロシア連邦国家統計庁サハリン州局「『クリル』3地区の社会経済状況」(出典：内閣府北方対策本部「北方地域総合実態調査-北方四島の現状(平成28年度版)-」)より作成

<教育>

- 約17,000人のロシア人が暮らす北方四島には、色丹島に2校、国後島に3校、択捉島

に4校の計9校の初等・中等普通教育学校があり、約1,300人の生徒（2015年現在）が学んでいる。学校の年度は、9月1日から翌年の8月31日までとなっている。

～ロシア及び北方四島の教育事情～

- ロシアの学校教育は、ロシア連邦教育科学省が管轄している。初等学校4年、基礎学校5年、高等学校2年、大学5年からなっている。6歳あるいは7歳から第1学年に入学し、その後の義務教育期間は6～15歳の9年間である。初等・中等普通教育学校として11年を一貫教育で行うケースが多い。
- 北方四島には就学前教育機関として幼稚園、託児所が9か所ある。また、四島には9校の初等・中等普通教育学校があり、合計約1,300人（2015年現在）が就学している。北方四島には大学がないため、大陸等にわたって就学する。出所「教育・文化」〔出典：内閣府北方対策本部「北方地域総合実態調査-北方四島の現状（平成28年度版）-」より作成

<その他>

- サハリン州では、地上波デジタル放送がテレビで11チャンネル放送されており、ほぼ全域で受信できるようカバーされている。また、新聞は国後島では「ナ・ルベジェ（国境にて）」が、択捉島では「クラスヌイ・マヤーク（赤い灯台）」がそれぞれ週2回発行されている。
- ロシア全土をカバーする携帯電話通信会社のメガフォン、MTS（モバイル・テレシステムズ）、ビーラインが、北方四島でも携帯電話のサービスを提供している。



ダーチャ(家庭菜園付き別荘) (国後島)



空港 (国後島)



病院 (択捉島)



日本の人道支援で建てられたディーゼル発電所 (色丹島)

写真提供) 独立行政法人北方領土問題対策協会

4. ワークシートの活用について

アドバイス	<p>■課題（1）：知識・理解に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none">ワークシートの課題（1）は、教員からの説明を行う前（授業の冒頭）に、北方四島の位置や歴史的な経緯等に関する復習を兼ね、生徒がこれまでに学んだこと、知っていることを全般的に確認するために用いると効果的である。 <p>（解答例）</p> <p>北方四島は、第二次世界大戦後にソ連により占領された島で、日本政府は返還を求め、ロシア政府と交渉を続けていることについては、教科書やニュースなどを通じて知っていた。</p> <p>■課題（2）：思考・判断・表現に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none">ワークシートの課題（2）では、生徒に対し必要に応じて次のような投げかけを行い、新たな気づきの発見を促すと良い。<ul style="list-style-type: none">北方四島の写真を見て、何かイメージが変わったことはあるか？変わったイメージを思いつく限り書いてみよう！自分の住んでいる街、自分の暮らしぶりとは比べたとき、北方四島の生活についてどのように感じたか？ <p>（解答例）</p> <p>現在、北方四島には約 17,000 人のロシア人が暮らしていて、近代的な水産加工場などが立地していることや、近年、ロシア政府が四島へのインフラ整備を重点的に進めていることについては、授業を通じて初めて知った。また、特に、ロシア政府のインフラ整備は、今後、日本政府が行う北方四島の返還交渉に大きな影響を与えるのではないかと感じた。</p> <p>■課題（3）：思考・判断・表現に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none">ワークシートの課題（3）は、発展的な観点から、外交が「対立」だけの一面的な問題、状況ではないことについて、生徒に考えさせることを目的としたものである。 <p>（解答例）</p> <p>日本政府は、我が国への信頼感を高め、平和条約締結交渉の促進に向けた環境整備に資することを目的に、北方四島在住ロシア人に対して、人道的な支援を行っている。</p>
-------	--